



巻頭より

人間はこの世に生を受けたときは、原石のようなものであり、後天的に磨き上げることではじめて光り輝く宝石のような素晴らしい人格者になることができる。

試練を、絶好の成長の機会としてとらえることができる人、更には、人生とは心を高めるために与えられた期間であり、魂を磨くための修養の場であると考えられる人——。そういう人こそが、限りある人生を豊かで実り多いものとして、周囲にも素晴らしい幸福をもたらすことができるのです。

働くことの大切さ

現代を生きる若者たちに「働く」ことの大切さを教えなければならぬと思います。

一所懸命に働くことが、人生を素晴らしいものに導いてくれるのです。働くことは、まさに人生の試練や逆境さえも克服できる「万病に効く薬」のようなものです。誰にも負けない努力を重ね、夢中になって働くことで、運命も大きく開けていくのです。

人は得てして、恵まれた環境にあっても、与えられた仕事をつまらないと思い、不平不満を口にします。しかし、それで運命が好転するわけではありません。与えられた仕事を天職と思い、その仕事を好きになるよう努力し、更に打ち込むのです。

そうするうちに不平不満は消え、仕事も順調に進むようになっていくはずですが、さらに懸命に働き続けていくことで素晴らしい考え方や人格を自分のものにすることができ、結果として物心ともに豊かな人生を送ることができるのです。

どんな困難に直面しようとも、誰にも負けない努力を重ね、いつも明るく前向きな気持ちで懸命に働き続けることで、人生は必ずや豊かで実り多いものになる——このことを、人生の先達であるわれわれが、いまを生きる若者たちに伝えることが責務であると思います。

人生は、大小様々な苦難や成功の連続であり、そのいずれもが試練なのです。そして私たちの人生は、その人生で織りなす試練を、どのように受け止めるかによって大きく変貌していくのです。

成功した結果、地位に驕り、名声に酔い、財に溺れ、努力を怠るような人。それとも成功を糧に、更に気高い目標を掲げ、謙虚に努力を重ねていくのか、その後の人生は天と地ほどに変わってしまうのです。

人生を終えるときに、立派な人格者になった人もいれば、そうでない人もいます。その違いは、人生を歩む中で、自らを磨き人格を高めることができたかどうか、ということにあると私は考えます。



稲盛 和夫 著 「成功」と「失敗」の法則 より

父が、「百姓は自分の身体をいじめることだ！」とよく言っていたのがわかりました。懸命に働くことなのだということ。でも、なかなか「人格を高める」ことは容易ではなさそうです。これからも額に汗しながら試練を受け止めていきたいと思います。